

1. 件名：福島第一原子力発電所における環境線量低減対策に係る面談
2. 日時：令和4年10月25日（火）13：30～14：30
3. 場所：原子力規制庁6階会議室
4. 出席者：
原子力規制庁 原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室
松田室長補佐、横山係長
東京電力ホールディングス株式会社（テレビ会議システムによる出席）
福島第一廃炉推進カンパニー
プロジェクトマネジメント室 担当2名
5. 要旨：
 - 東京電力ホールディングス株式会社（以下「東京電力」という。）より、福島第一原子力発電所における環境線量低減対策について、資料に基づき主に以下の説明があった。
 - 1～4号機原子炉建屋からの追加的放出量の評価結果
 - ✓ 有意な変動は確認されなかった。
 - タービン建屋東側における地下水及び海水中の放射性物質濃度の状況
 - ✓ 有意な変動は確認されなかった。
 - 2,3号機及び3,4号機取水口間地下水放射性物質濃度と降水量の推移
 - ✓ 引き続き地下水No. 2-5の全β測定値が上昇傾向であり、No. 3-5の全β測定値で高止まりが見られるが、有意な変動は確認されなかった。
 - ✓ 港湾口海水モニタについては、2022年10月18日よりサンプル取水ポンプ出口圧力が低下したことにより稼働が停止したが、10月24日に復旧し25日現在、モニタは稼働している。
 - ✓ 港湾口海水モニタの稼働が度々停止していることを踏まえ、現在、社内でモニタ稼働率を向上するための改善策の検討を行っている。
 - 【参考】多核種除去設備等処理水の取扱いに関する海域モニタリング計画について
 - ✓ 有意な変動は確認されなかった。
 - 原子力規制庁は、上記説明内容について確認し、東京電力に対し以下の点についてコメントした。
 - ✓ 引き続き地下水No. 2-5測定値の上昇傾向、No. 3-5では測定値の高止まりが見られるため、測定値上昇傾向の要因調査を含め今後の測定値について注視していくこと。
 - 東京電力から、上記コメントについて了解した旨回答があった。
6. その他

資料：

- 環境線量低減対策スケジュール
- タービン建屋東側における地下水及び海水中の放射性物質濃度の状況について
- 1～4号機原子炉建屋からの追加的放出量の評価結果（2022年9月）
- 別紙 1～4号機原子炉建屋からの追加的放出量評価結果 2022年9月
- 評価分（詳細データ）
- 空气中放射性物質濃度の分析結果（1～4号機）
- 多核種除去設備等処理水の取扱いに関する海域モニタリングの状況について

以上